

**製品名: BST-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07674**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	34kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BST1
別名	BST1; ADP-ribosyl cyclase 2; Bone marrow stromal antigen 1; BST-1; Cyclic ADP-ribose hydrolase 2; cADPr hydrolase 2; CD antigen CD157
遺伝子 ID	683.0
SwissProt ID	Q10588
免疫原	抗血清はヒト BST1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

**背景**

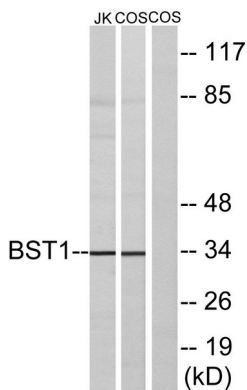
骨髄間質細胞抗原 1 (BST-1) は、間質細胞株由来のグリコシルホスファチジルイノシトールアンカー分子であり、プレ B 細胞の増殖

を促進する。推定アミノ酸配列は CD38 と 33% の相同性を示す。関節リウマチ患者由来の骨髄間質細胞株では、BST1 の発現が亢進している。関節リウマチにおけるポリクローナル B 細胞異常は、少なくとも部分的には、間質細胞集団における BST1 の過剰発現に起因する可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: NAD(+) + H(2)O = ADP-リボース + ニコチンアミド,疾患: 関節リウマチ (RA) 患者は、骨髄間質細胞株において BST-1 転写産物の発現亢進を示す。この結果は、BST-1 の過剰発現が RA における B 細胞異常の一因となっている可能性を示唆している。機能: 細胞内カルシウム貯蔵庫からのカルシウム放出を促すセカンドメッセンジャーである環状 ADP-リボースを合成する。プレ B 細胞の増殖に関与している可能性がある。類似性: ADP-リボシルシクラーゼファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 広く発現している。

## 研究分野

ニコチン酸およびニコチンアミドの代謝;カルシウム;

## 画像データ



COS7 細胞および Jurkat 細胞のライセートを BST1 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BST-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析